

米国製武器購入 9316億円

24年度予算案 過去2番目の規模

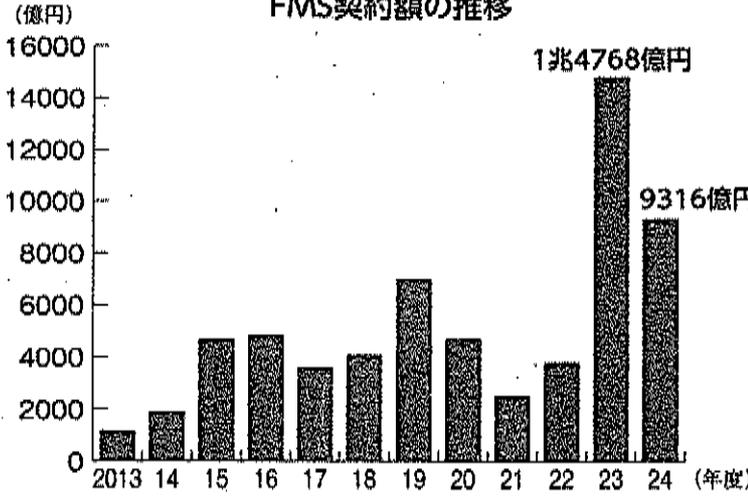
政府の2024年度予算案で米政府の武器輸出制度である有償軍事援助（FMS）に基づく武器輸出の予算額が9316億円であることが分かりました。

23年度比で5452億円減少しましたが、過去2番目の規模です。

防衛省はFMSで購入している主な装備品として、F35A・Bステルス戦闘機や、長射程巡航ミサイル・トマホーク、V22オスプレイ、無人偵察機グローバルホークなどを挙げています。

FMSは米国が価格

FMS契約額の推移



※2024年度は予算案

や納期、契約解除まで一方的に決められる枠組みで、価格は米国内

より割高になるケースが多く、軍事費が膨らむ要因の一つになっていきます。未納入や清算金の未返還などの事案が相次いでおり、20年の参院本会議では「改

善すべき課題が山積」などとする警告決議も上がっています。防衛省自身も「納入遅延や清算遅延などのさまざま課題がある」（23年版防衛白書）として

しかし、岸田政権は米国奮いなりの大軍拡を進め、安倍政権をはるかに超える「爆買い」を行い、米軍需産業に巨額の利益をもたらそうとしています。